

鷗朋会 ニュースレター

【第 6 号】 2009.4.

奥野先生が母校の理事長・学長に

既に新聞等の報道でご存知の方もおられると思いますが、鷗朋会の奥野先生（大学 17 期）が本年 4 月から母校である公立大学法人大阪府立大学の理事長・学長に就任されます。この喜ばしいニュースを会員皆様にお知らせできるのは大変幸いです。同窓生の大半の方には“理事長”に馴染みが無いと思いますが、これは法人組織の長の職名であり、研究教育組織の長としては“学長”になると思います。（法人化：平成 17 年 4 月）

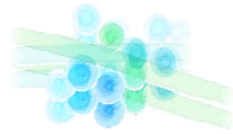
理事長・学長はこのように二つの重い職を兼任するわけですから、法人化前の学長より強い権限が付与されています。これは、変化激しい環境に対処してリーダーシップを発揮し、大学の経営と教育研究の運営をリードするためです。母校の場合、理事長・学長は理事長選考会議だけで選任されるシステムになっており、教員の信任投票を経ませんから、この会議ではより慎重に選考が進められたと思われま。奥野先生の工学研究科長や副学長時などの実績と手腕が評価されたものと推測しますが、池田先生（本会副会長）を始めとする海洋システム教室の先生方の活躍も後押ししたのではないのでしょうか。

ここで先に触れた大学の周辺環境を見ますと、母校は大学設置者（大阪府）による府立系 3 大学統合からも推察できるように厳しい経費節減を強いられていますから、また周辺の各大学が互いに激しい競争状態にありますから、このような中で受験生の確保、教育研究環境の維持・充実、研究業績の積み上げ、地域社会への貢献などで実績を上げることは決して容易ではありません。

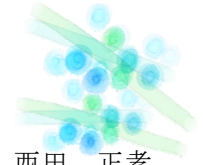
このような大学の厳しい周辺環境の中で、いま同窓会は大学から大きな期待を寄せられています。同窓会は、会員相互の親睦を図ると共に、教室・学部・大学との連携を図り、発展に寄与する組織ですから、同窓会員にとって母校の活躍や発展を聞くのは嬉しく誇らしいものです。このような活躍や発展を促すためには、会員相互、また大学と同窓会の相互が親睦と互惠関係を深めることが必要でしょう。私学は言うに及ばず、他の多くの国公立大学においても同窓会は大学に対して大切な役割を担い、果たしています。会員相互及び同窓会と大学の関係をより深める方法の一つとして、本紙の別の記事で紹介されている府立大学コミュニティの構築があり、現在これが検討されています。

奥野新学長の門出に際して、単位同窓会の鷗朋会としてできるだけ支援して行きたいと思っています。厳しい状況は対応の仕方でこれをチャンスに変えることが可能であることは、皆様が見聞き経験しておられる通りです。新学長のリーダー・シップの下、会員皆様の多方面からの支援をぜひお願いいたします。

会長 定兼廣行（大学 15 期）



夢を追い続ける大学 17 期



報告者 大学 17 期 西田 正孝

我々の同級生である奥野武俊君が大阪府立大学の次期学長に就任するという一大朗報は、平成 20 年 11 月 14 日、私が㈱日伝の電気設備点検の最中に携帯電話に飛び込んできた。早速、奥野先生と連絡を取り、12 月 23 日にリーガロイヤル堺の 26 階アクアマリンで奥野先生を囲んでの卒業 40 周年記念同窓会を行うことを決めた。

ここから、青春時代に同じ釜のめし（造船を学ぶ）を食い、夢、人生を語りあった仲間のメール交換が始まることになった。現在、歯科医をしている S 君が卒業してからの自叙伝をメールにのせて配信してきたのを皮切りに、40 年ぶりの再会に向けて各人のメールが活発ににぎやかに飛び交った。

12 月 23 日、会場に集まった仲間は総勢 17 名、奥野先生を囲んで昔話やら各自の近況などを語り合った。残念ながら、仕事で欠席せざるを得ない同窓生 7 名からは、メール等での近況報告があった。同窓会における各人の近況は、以下のとおり。

M 君は O 造船所において工作部長の間、タンカー、貨物船等 153 隻進水させるという発表すればギネスブックに載るという快挙を報告。

S 君は、東京～小笠原間を結ぶ日本が誇る超高速船建造に関わる。しかし時代の流れ、残念ながら三井玉野に係留中という報告。



40 年ぶりに再会した Y 君は、『退職後には妻と山小屋のようなところに住む』という夢をとつとつと語ってくれた。

奥野先生は、学長に選出された経過を報告。これは、まったく私の空言、彼が学長になれたのは、いつも送ってくれる年賀状のイエスキリストの愛に満ちた精神の持ち主だからです。

そして、K 君は脳梗塞という病から強い精神力（リハビリ）で立ち直り、今も M 橋梁会社に現役として勤めているという報告。この報告は、奥野先生が学長になったのと同じ位に同窓生に夢と感動を与えてくれました。

船舶 17 期の同窓生は還暦をすでに過ぎてはいますが、ほぼ全員が現役でまた自然体で夢を追い続けていることを、奥野先生の学長就任のお祝いを兼ねた卒業後 40 年という節目の同窓会にて改めて認識できました。そう、福沢諭吉の言葉！『世の中で一番楽しく立派なことは一生涯を貫く仕事をもつことである！』こんな感じが、船舶 17 期です。



大阪府立大学船舶工学科 昭和 40 年入学生同窓会
平成 20 年 12 月 23 日 (リーガロイヤルホテル堺)

そして、同窓会後に配信されてきたある一つのメール。

「40年ぶりの再会は、あっという間の時間でした。お互い話をするうちに、昔の思い出が次々浮かんで来て感無量でした。この機会を与えてくれた奥野先生に、改めて御礼申します。皆さん良いお年を、またの再会を楽しみにしています。」

お祝いメッセージ



大野 尚仁 (大学30期)

学長ご就任おめでとうございます。



渡辺 豊徳 @S40卒

学長ご就任おめでとうございます。

船舶工学から学長に就任されたこと実に喜ばしい。



大野茂樹 (大学8期)

このたびの奥野先生の理事長・学長へのご就任は大変おめでたいことです。しかし一面、大阪市大との合同も視野に入れると言う橋下知事の考え(?)ももれ聞こえてくる中、大変な立場に立たれたとご同情申し上げると共に、我々卒業生の思いも担ってなお一層のご奮闘・ご活躍を期待します。それにしても、私が在学中は、赤崎繁先生がちょうど学長だったと思います。それ以来大発展した母校の学長になれることは、本当にうれしいです。奥野先生万歳!!



増田征二 (大学10期)

奥野先生、学長就任、おめでとうございます。教職にある者にとって、最高のポジションだと思いますよ。それだけ責任も重くなりますが、先生とは私が同窓会の副会長・会長をやらせて頂いた時、一緒に副会長として殆どの仕事をやって頂き、大変助かりました。その当時から、先生は海洋システム工学科のみならず、大学全体のあるべき姿を考慮に入れた発言をされておりましたが、いよいよそれを具現化する立場になりました。厳しい時勢ですが、大阪府立大学の発展のために頑張ってください。

第53回テクノラボツアー「海洋システム工学分野の研究」

恒例になった海洋システム工学科のテクノラボツアーが、4月28日(火)に開催されます。このテクノラボツアーは、工学部内に設置されている大阪府立大学産学官共同研究会が会員向けにはほぼ毎月開催しているもので、大学での研究をテーマ別に紹介し、さらに研究室や研究施設の見学等をして頂き、大学のシーズを民間企業に活用していただくことを目的としています。

この第53回の海洋システム工学科のテクノラボツアーでは、現在、海洋システム工学科の各研究室で学生たちが卒業研究、修士および博士論文作成のために行っている研究について、それぞれポスターにして紹介しています。ポスター展示は、海洋システム工学科の入っているA6棟(旧船舶工学科が入っていた建物です)の廊下を使って行われ、さらに各研究室も開放して、各テーマについての詳しい説明も受けられます。いったい海洋システム工学科では、今、どんな教育と研究が行われているのかを知る絶好の機会ですので、ぜひ、ご参加下さい。

昨年同様、鷗朋会は本テクノラボツアーの協賛団体として登録しておりますので、3000円の参加費も無料となります。見学も終わって喉も渇いた夕刻には、海洋システム工学科会議室において懇親会が開催され、これは鷗朋会の同窓会としても位置づけられています。この懇親会には参加費2000円が必要です。

参加のお申込は、海洋システム工学科のテクノラボツアー参加希望と記し、氏名、所属(鷗朋会会員であることも明記して下さい)、住所、電話番号、懇親会参加の可否、を記載して下記までファックスまたは郵送でお願いします。

締切りは4月21日です。

大阪府立大学大学院工学研究科リエンソオフィス内 大阪府立大学産学官共同研究会事務局

〒599-8531 堺市中区学園町1-1 TEL&FAX: 072-254-9206

当日のスケジュール: 14:00 受付 (A6棟2階海洋システム工学分野会議室前)

14:00~17:00 パネル展示、研究室訪問、17:30~18:30 懇親会

ニュース!

大学が卒業生ネットワーク作りに着手

大学当局は、本年度から、卒業生、在校生、父兄、教職員のネットワーク作りを行うこととなりました。このネットワークの中には、同窓生の名簿管理も含まれており、各学科単位や地方同窓会もこのシステムを使つての会員への連絡などが可能となります。

同ネットワークは「翔」と名付けられる予定で、平成22年度からの運用を目指しています。各学部同窓会の連合体である大阪府立大学同窓会では、大学当局との協議の結果、このネットワーク作りへ協力し、完成後は積極的に活用させてもらうこととし、同同窓会を発展的に拡大した組織に衣替えすることを検討しています。名前の変更については、「学友会」等の案がありましたが、現在のところ「翔友会」が有力候補となっています。なお、同会の運営は、大学当局の出資金と新入生からの拠出金で賄われる予定で、同窓生からの会費徴収はありません。

また、各学科単位の同窓会の活動については、これまでと同じであります。名簿管理には同システムの利用が可能となります。

大阪府立大学史資料収集事業についてのお願い

21世紀科学研究機構・大学史編纂研究所 所長 山東 功(人間社会学部)

大阪府立大学賜朋会会員の皆さまには、本学の教育・研究に関しまして平素より格別のご厚情を賜り、大変感謝致しております。

このたび、21世紀科学研究機構大学史編纂研究所におきまして、大阪府立大学史資料の本格的な収集事業に着手することとなりました。当研究所は2008(平成20)年4月に設置されました学長指定型バーチャル研究所の一つであり、大学院工学研究科・有馬正和准教授をはじめとする各学部所属の教員により運営されております。現在は資料収集事業を中心に活動を行っておりますが、将来的には本格的な大学史の編纂とともに、効果的な資料展示を視野に置いた博物館的機能に拡充するべく、鋭意努力致しているところです。

つきましては、会員の皆さまには大阪府立大学史資料収集事業に是非ともご協力を賜りたく、今般拙文を掲載させて頂く運びとなりました。具体的には、1939(昭和14)年設置の大阪工業専門学校をはじめ、大阪府立化学工業専門学校、大阪府立淀川工業専門学校、大阪府立機械工業専門学校といった大阪府立大学の前身機関から、浪速大学工学部〔1955(昭和30)年からは大阪府立大学〕に至るまでの大学史資料を広く収集致しております。現在、本学で大学史と呼べる刊行物は、工学部関連のものに限りましても、『大阪府立大学十年史』や『大学の歴史・大阪府立大学工学部』、各学科同窓会刊行の年報・記念誌類というように、全学にわたる本格的な通史を未だ刊行致しておりません。このままでは、資料の散逸や消滅という悲惨な状態に陥ることも決して杞憂とは言えず、まさに喫緊の課題として資料収集が必要な段階にきています。

一般的に、大学史におきまして収集対象となる資料には、以下のようなものが挙げられます。

大学卒業生の卒業証書、アルバム、講義ノート、伝記、書簡等々(とくに当該大学に関係あるもの)。

大学の歴史を示す記章、記念品、トロフィー、旗、制服、制帽、等々の物品。

大学に関する写真、テープ、ビデオテープ、フィルム等。

このような資料で、本研究所に寄託・寄贈して頂けるものがございましたら、末尾連絡先まで是非ともご一報頂きたく存じます。特に大学草創期(大阪工業専門学校や浪速大学の頃)の写真につきましては、本学広報の上でも極めて有意義な資料となりますので、何卒ご協力のほど、重ねてお願い申し上げます。

日進月歩する学問の進展の中で「あらゆる学問の生きた連関についての真実の認識」(ドイツ観念論哲学者、シェリングの言葉)を歴史的に顧みる手段としても、大学史は大変有意義なものと言えます。向後とも、本研究所の趣旨に何卒ご理解賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

<お問い合わせ先>

〒599-8531 堺市中区学園町1番1号

大阪府立大学21世紀科学研究機構室 室長 竹本雅美

TEL: 072-254-8327(直通) FAX: 072-254-8421

E-mail: cmt02039@ao.osakafu-u.ac.jp